



第2回日台ロータリー親善会議 日月潭で旧交を温める

ゾーンが離れても…蓄積された友情は厚く

10月10日、「第2回日台ロータリー親善会議」（台湾名：日台国際ロータリー親善会）が開催されました。日本列島を襲った台風18号の影響が心配されましたが、日本から220人が無事現地入り、台湾からは217人、計437人のロータリアンと関係者が、台湾中部にある同国最大の湖・日月潭のほとりに建つ雲品ホテルに集まりました。

前日から、台中など各都市で姉妹クラブと交流を深めたクラブもあり、午後4時半の開始時には、場がすっかり温まり、熱気にあふれていました。参加者を制限するほど狭い会場をわびる主催者の声もありましたが、距離の近いテーブルの間を、譲り合いながら会話を交わす環境は、かえって参加者の親密度を増したのではないのでしょうか。

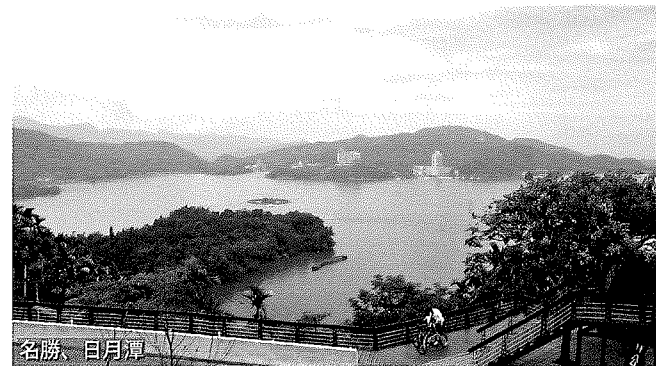
いよいよ開会。冒頭で、日台ロータリー親善会議の発起人の一人で、昨年10月に亡くなった故・佐藤千壽特別顧問をしのび、全員で黙祷をささげました。「歓迎の辞」で日台国際ロータリー親善会理事長・林士珍氏は、「急死の報に接したときはまったく信じられず、幾度か涙が零れ落ち、ただ呆然となるばかりでした」と、哀悼の意を表明。日台ロータリー親善会議総裁・前川昭一氏は、今年2月の佐藤氏のお別れの会に、林氏をはじめ総勢17人が来日して列席し、さらに請われて鎌倉の墓参にも訪れたエピソードを紹介、「台湾の皆さまの友情に、

強い感銘を受けました」。

同会議会長・多田宏氏からは、会議発足の経緯が紹介されました。2007年2月の第2580地区地区大会に林士珍氏が国際ロータリー（R I）会長代理として出席したのが縁で、故・佐藤氏や前川氏ほかの間で両国ロータリー親善会創設の話がもち上がったのが、その発端です。その後準備を経て、第1回は昨年5月、約700人を集め東京で開かれています。

開催地第3460地区ガバナー・張光瑤氏は、翌11日開催の台湾7地区合同事業「国際ロータリー日月潭環湖マラソン大会」を紹介。大会では、ロータリーのポリオ撲滅活動を世間に周知させようと、参加者に配る記念品と風船に14か国語で「END POLIO NOW」の言葉が刻まれているとのこと。6,458人参加の大規模なマラソン大会を翌日に控え、また会議当日は台湾の建国記念日で、当地で花火大会も開催。日月潭周辺はにぎやかな雰囲気、会議に花を添えていました。

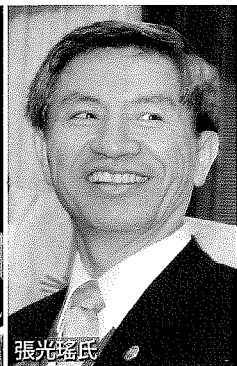
謝三連R I理事は、「日本と台湾のロータリークラブ（R C）は多くの姉妹クラブを結んでいます。今年7月から、R Iは台湾を日本と同じゾーン4から、韓国と同じゾーン10に変更、日本と違うゾーンになりました。今後日台は、より積極的に親善交流すべきです」と述べ、重田政信元R I理事も、ロータリー研究会などの行事で交友を保つ機会に恵まれていた状況が今年度から変わり、「両国のロータリーが築いてきた信頼関係をますます強固なものとし、友好を一層深めるために、この



名勝、日月潭



林士珍氏



張光瑤氏



前川昭一氏

親善会議が果たす役割はきわめて大きいと思います」と、今後一層の交流推進を呼びかけました。

林理事長と30年来の友人という千玄室元R I理事は、「世界中がもつさまざまな問題を、いろいろ手段で解決していくのはロータリーの力だと思



阮允恭氏と山下世莉さん

思います。もう少しロータリアンが勇気を持ち、前向きな姿勢で問題を解決していただくよう、結集しようではありませんか」と、昨今の厳しい世界情勢の中で、両国ロータリアンがこうして会議を開くことの意義を強調。

前駐日代表・許世楷同会特別顧問は「日本と台湾の間には、国交がありません。国交がないということは、逆に言えば民間外交、民間交流が大変大事であるということです」。氏の住む台中にはR Cが開発した住宅地があり、小公園には、20年前に建てられた台中東南R Cと、日本のR Cの姉妹クラブ締結記念碑があるそうで、古くから両国ロータリアンが交流してきたことを示すエピソードです。

米山学友から「日本の皆さまに恩返し」

「日台親善会議の『来賓スピーチコンテスト』ですわ」と笑わせ、ユーモアあふれるあいさつで会場を沸かせた黄其光元R I副会長に続き、「台湾一のスピーカーの後は、大変不利でございます」と、(財)ロータリー米山記念奨学会理事長・板橋敏雄氏が登壇。数多い日台交流の中でも外せないのが、米山記念奨学事業です。板橋氏は、毎12月に行われる学友会総会で、台湾全土から200人超の学友が集い、「私と握手をするときに学友さんが、『私は〇〇大学を出て、〇〇クラブのお世話をいただきました』と必ずおっしゃる」と、十数年以上前に世話になったロータリークラブの思いが個々の心に残っていることに感動した、と語りました。そして学友の一人で、「(社



岩尾碩氏(左)から林氏に義援金を手渡す

中華民國扶輪米山会（台湾学友会）」の阮允恭理事長が、山下世莉さんと登壇。学友会最古の歴史をもつ同会は昨年、台湾で学ぶ日本人対象の奨学金制度を設立。第1号奨学生に選ばれた山下さんは、今年9月から国立政治大学大学院で学んでいます。「日本のロータリアンへの恩返し気持ちです」と阮氏。米山の精神が、台湾でまた一つ違う花を咲かせたようです。台湾には1975年創立の「中華ロータリー教育基金会」もあり、今年度は日本から3人を受け入れる旨の報告もなされました。

スピーチで長年の固い絆を確かめ合った後は、待ちに待った懇親会。台湾の少年少女たちの楽器演奏や、色鮮やかな民族衣装をまとった泰雅族の踊りなどが壇上で繰り広げられ、華やいだ場内で「カンペイ（乾杯）」があちこちで始まりました。台湾式の乾杯は、一対一で向き合って酒を一気に飲み干した後に、互いにグラスの底を見せ合います。陽気なカンペイの嵐に巻き込まれ、翌日起き上がれなかった日本人も多かったのでは。司葉子氏（東京恵比寿R C）の人気は台湾の年配者の間でも高く、記念撮影を求める輪が途切れませんでした。

懇親会では、同会議事務総長・岩尾碩氏が林理事長に、8月に台湾を襲った台風8号の被害への義援金（1,451万506円）を手渡し、林理事長から感謝の意が述べられました。積み重ねた両国の援助、友好の精神は、来年に続きます。第3回は2011年6月、京都で開催予定。互いに再会を約し、にぎやかなまま散会となりました。

取材 編集スタッフ 山名 愛



泰雅族の踊りで会場が華やく



断れない「カンペイ！」



宴の盛り上がりは最高潮に